

タブレットを活用した音読テストまでの一連の活動と学習評価 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 PROGRAM 2 Leave Only Footprints)

①読む

②個・学

②評価

③タブ

③デジ教

④Google クラスルーム

【ここがポイント！】

①「動画撮影による自己評価」～十分な音読量の確保～

生徒はデジタル教科書の音声を聞きながら練習をする。その後、一斉に音読テストに取り組み、音読の様子をタブレットで撮影する。撮影した動画を客観的に見直し、教科書に書かれた内容が表現されるように音読できているか自己評価をする。授業時間内であれば何度でも撮り直すことができるため、改善点を考えながら繰り返し音読をすることができる。

②「Google クラスルームへ動画の提出」～提出された動画の評価～

生徒は撮影した動画の中から、納得のいく音読ができたものを選択し、Google クラスルームへ提出する。指導者は授業後に動画を見比べたり、巻き戻したりしながら、落ち着いて評価ができる。また、動画ファイルはGoogle クラスルームに保存されるため、生徒の英語力の変容を見取ることもできる。

【実践の目標】

教科書本文の内容が表現されるように、英語特有の発音・アクセント、抑揚や強弱のつけ方、間の取り方、音量、速さなどを意識し、音読をすることができる。

【実際の場面】

1. デジタル教科書を活用した音読

生徒は、デジタル教科書の音声を聞き、音読をした。ヘッドセットを使用することで、周りを気にすることなくデジタル教科書の音声を聞いていた。自身の力に合わせて音声の速度を変えたり、本文を表示せず、音声のみを基に音読したりした。



2. 音声認識機能を活用した発音練習

発音が正しいか確認するために、Google 翻訳の音声認識機能を活用した。発音が正しくないと、不正確な文章が表示されるため、生徒は正しく聞き取ってもらえるよう、繰り返し練習した。

3. タブレットで動画の撮影

自分の音読を客観的に聞き、改善につなげるために、生徒は音読の様子を撮影し、何度も見直した。納得のいく音読になるまで、発音やスピードなどを意識しながら練習を重ねた。

4. Google クラスルームへ提出

指導者は、Google クラスルームへ音読テストの課題を投稿した。生徒は各自割り当てられたGoogle アカウントでログインをした後、撮影した動画の中から、上手くできたと思う動画を選択し、提出した。

5. 提出された動画の採点・評価

指導者は授業後に、Google クラスルームに提出された動画を採点・評価した。

【成果と課題】

【成果】

- デジタル教科書の音声を基に練習するため、発音・アクセントだけでなく、抑揚や強弱のつけ方、間の取り方が身に付き、感情を込めた音読ができるようになった。
- 自分の音読の様子を見直しながら練習できるため、客観的な反省を生かして練習することができた。
- 各自で一斉に音読テストに取り組むため、十分な練習量を平等に確保できることに加え、動画として残るため、評価の際に見直したり見比べたりすることができた。

【課題】

- 一斉に音読をするため、動画の中では他の生徒の声と重なってしまう。
- 他の生徒の練習を妨げないように気を遣い、声小さくなりがちであった。
- 書かれた内容を理解し、内容にふさわしく音声化したり、相手意識を持って読むなど、音読をすることの目的や意義を、生徒に意識させた上で活動に取り組みせていく必要がある。

庄原市立東城中学校

